

## かさねの色目の花あそび No.48

### 【色目】桃 <表：淡紅 裏：萌黄>

萌黄色の新芽を配し、咲き匂う桃の花を表した色目。  
古代、桃は邪気を払う力があるとされた。

が、品位は、梅花・桜花に劣ると見られたそうだ。  
要するに桃の花自体より、その素直な枝ぶりが風情が  
ないというか、味がないというか、日本人好みじゃな  
いからだろうか。

私も梅と桃を比べ、こんなことを書いたことがある。

[akitakabe.news.coccan.jp/ikebana/hanagen/kurabekko.html](http://akitakabe.news.coccan.jp/ikebana/hanagen/kurabekko.html)

私もどちらかというか、梅が好きだが、それぞれの味わいがあるのも確かだ。

ところで、記紀神話では、イザナギノミコトが亡き妻、イザナミノミコトに会い  
たくて黄泉国に行き……その顛末はさておき、彼は黄泉の国の鬼女から逃げ切るた  
めに桃の実を投げて助かった。そんな桃の霊力はいろんな古典から知ることができる。桃の霊力はもともと中  
国の信仰に基づくものだが、桃は「陽」の植物で、鬼は「陰」であるとされたことに由来するという。つまり、  
中国古代の「陰陽五行説」がベースになっているのだろう。

花材は、グラジオラス。蕾は包まれているが、包んでいるのは萼ではなく苞だが、その淡い色を萌黄色とした。  
また、下右横に張り出しているのは、葉を折り曲げたものだが、グラジオラスの葉は、薄い緑、黄色がかった緑。  
つまり萌黄色のような色だもん。



## かさねの色目の花あそび No.49

### 【色目】薄花桜 <表：白 裏：淡紅>

ほんのり紅を含んだ山桜  
の花を表した色目とのこ  
と。山桜は一重の奥ゆかし  
い桜であり、平安期以降か  
ら江戸期の染井吉野誕生く  
らいまで（だと思ふけど）  
の古典で、「花」と呼ばれた  
桜のことだ。

花材はミニバラ  
(⇒)。小さな小さ  
なバラが、咲き出す  
と頭の先にほんの  
りと淡い紅をさす  
(花器口の花の頭  
をよ〜く見て!)。ちょっと無理があるが、白と淡紅だ〜!! (笑)。



左は、そのミニバラを白、上記のグラジオラスを淡紅とみなした「薄花  
桜」とし、緑の濃淡（モンステラの葉とグラジオラスの苞）も一緒に。